

学校 教育 目標	「ひびきあい」 ○自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】 ○お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】 ○たくましい心と健やかな体を育てます【体】 ○社会とのかかわりを大切に、共に生きる態度を育てます【公】 ○さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】				
学校 概要	創立 56 周年	学校長 宮路 ますみ	副校長 前山 健	2 学期制	一般学級：22 個別支援学級：5
	児童生徒数： 685 人		主な関係校： 旭中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	旭中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
持続可能な社会の創造に貢献する力	旭中学校 中沢小学校	自ら学び、自ら考え、共に認め合い、協働して課題解決を進める 子ども ・主体的・対話的で深い学び、ユニバーサルデザインの授業を中心とした「共通授業コンセプト」の理念を表現するため、小中合同授業研究会を充実させる。 ・9年間で一貫した「児童生徒指導スタンダード」の定着を図るため、小中合同研修会を充実させる。 ・独自教科「地域・防災科」の取組における、小中学校合同地域防災訓練等を通じて、地域に根ざした児童生徒を育成する。

中期 取組 目標	<子ども一人ひとりの思いを大切にしながら> ○多様な人との出会いや学び合いを通して、しなやかに考え挑戦することを楽しむことができますようにします。 ・1年目は意図的に協働的な学びを設定し、他者の考えのよさを受け入れる力を育てます。 ・2年目は他者の考えのよさを受け入れ、よりよい考えを創り出そうとする姿勢を育てます。 ・3年目は多面的、総合的な見方を身につけ、しなやかに考える子どもを育てます。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。 ○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちのために活動しようとする意欲を育みます。	

重点取組分野		具体的取組
知	授業づくり	(1)児童が互いに学びあったり、多様な他者と共に関わったりする「協働的な学び」を教科領域や学年といった枠組みにとらわれずあらゆる場面で意図的に設定する。 (2)校内授業づくり研究会を中心に、日々の授業で相手意識や学習の目的を意識した学びを構築できるように学習の流れを工夫する。 (3)各教科・領域での学びを通して、友達との考えと比べたり、新しい発想に触れたりして他者の考えのよさを受け入れ、よりよい考えを創り出そうと再考する力を育む。
	担当 授業づくり部	
徳	豊かな心	(1)ペア活動・たてわり活動・6年生による1年生サポート等での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育てる。 (2)音楽活動や学校行事等を通じて、友達と同じ目標に向かうよさを実感できるようにする。 (3)子どもたちがお互いに個性を認め合える居心地のよい学級・学校となるよう、全職員で対応していく。 (4)まわりとのかかわりの中で、自分の行動を顧みて相手の気持ちを察する力を育むようにする。
	担当 人権部、児童指導部	
体	健やかな体	(1)元気アップタイムや学校保健委員会の取り組みを通じ、健康を守ることに興味をもつことできるようにする。家庭と連携し、運動、食育や心の健康に取り組んでいく。 (2)一人ひとりが体力・運動能力調査の分析に基づいて、体育学習に取り組んだり、運動習慣を改善したりできるようにする。 (3)子ども主体で計画された運動集会を定期的に行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。
	担当 健康食育部	
公 開	地域とともに歩む	(1)地域・防災科の目標を意識し、地域・防災科やそこにつながる1～5年生の学習活動を充実させる。 (2)総合的な学習の時間や生活科を中心に、日々の学習活動で子ども達が地域とのかかわりを意識化できるようにする。 (3)子ども達が自ら積極的に地域とつながり、自分にできることを考えられるようにするため、多様な人々との出会いを基盤にし、そこから生まれる問いを大切にしながら、小さな行動と振り返りを積み重ねられるようにする。
	担当 地域・防災科	
いじめへの対応		(1)子ども会議等の子どもたちが話し合う機会を設定し、居心地のよい学級、学校づくりに努め、いじめの未然防止を図る。 (2)教科分担任制など複数の教職員による児童理解に根差した支援体制で、早期発見・対応につなげる。 (3)ICTでの毎日の健康観察等を活用し、当該児童の心のケア、意向に寄り添った対応をする。状況に応じ関係機関と連携し、適切な指導、支援を構築する。
人材育成・ 組織運営(働き方)		(1)3年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって月1回の活動の支援を継続して行う。 (2)校務分掌を少人数化し、責任の明確化と意思決定のスピード化を図る。 (3)月1回の主幹会・運営委員会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。 (4)ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。
小中一貫		(1)9年間で育てる子ども像を中学校と共有し、小中の職員が合同で授業研究や小中一貫併設校の研修会を行う。 (2)子どもたちの意見も取り入れながら、小中合同の児童生徒交流会を行う。 (3)中学との円滑な接続に向け、中学校教諭によるリード授業(6年図・理・音)や英語科教諭による外国語科授業(5・6年通年)、数学科の先取り授業(6年)を行う。
地域学校協働活動		(1)地域学校協働本部(CSC本部)を活用し、地域と学校の連携を強化する。CSC本部の公式LINEアカウントを使用し、1年生の入学当初や家庭科、生活科等の見守りサポートの募集、集約等を行うことで地域力の活用を促進する。それにより、子どもの活動が充実できるようにする。 (2)地域の方たちによる学援隊の協力をもとに安全対策の充実を図る。
児童指導		(1)新年度や長期休業明け前後などに横浜プログラムを取り入れることで、人とのかかわり方を身に付け、安心して過ごせるようにする。 (2)YPアセスメントなどで学級の実態に応じた社会スキルを設定し、認め合う学級集団づくりにつなげる。 (3)日常の場面や人権週間などで子ども達の意見を積極的に取り入れ、様々な立場の人の思いや考え方にふれ、人権感覚を高める。 (4)年2回のアンケート、子どもとの個別の教育相談を実施し、子どもが安心して学校生活を送ることができるようにする。
担当		